

第46回 関西学生サッカー選手権大会

関西3位で総理大臣杯へ!

関西大学との3位決定戦は、大体大が後半3得点してそのまま逃げ切り、3位で今大会を終えた。今大会の成績で、総理大臣杯(9月1日~10日、ヤンマースタジアム長尾)の出場を決めた。



MF 32番 西田恵 (体育2年)



新たなスタート

総理大臣杯でのシード権をかけた3位決定戦。決勝のつもりで闘ったと松尾元太監督から選手へと激励が飛ぶ。監督は緊張感が漂う中、0-0の均衡を破ったのは大体大だった。MF10番末吉聖(体育3年)が左サイドから中央に切り込んでくる。ペナルティエリア中央にいたFW9番大地(同2年)へとパスを繋いでシュート。ゴールネットを揺らして先制すると、アシストで活躍した末吉聖は、その後の後半44分1人で果敢にドリブルで切り込んでいき、相手DFをかわしてゴールを決めた。直後の45分1分には、途



MF 10番 末吉聖 (体育3年)

平成29年度 関西学生女子サッカー春季リーグ戦

春季リーグ 最終節2位



最終節は、6月18日、姫路大のグラウンドで行われた。勝ち点16で1位の姫路大を勝ち点15で追った。大体大が春季リーグ優勝をかけて、直接対決した。大体大は2-0で惜しくも敗れ、春季リーグを2位で終えることになった。

秋からの巻き返し期待

石居監督は「今回のリーグ戦は、試合に迷いがあつた。大阪女子サッカー選手権大会では、試合に迷いがあつた。では高校生もいので、次回



MF 13番 東原彩帆 (体育2年)



DF 32番 小野霞 (体育2年)

は選手たち自身でしっかりと判断して、試合をしてほしい」と最終節の試合リーグ戦を総評した。大体大サッカー部は、毎年秋季リーグが強い傾向にある。春季リーグという悔しい結果で終わったが、女子ユニバーシアード日本代表に鈴木千尋(体育2年)が選ばれるなど、秋に向けてレベルアップできる期待が膨らむ。大阪女子サッカー選手権では、なでしこリーグに所属するプロチームと対戦する機会もある。

Table with 2 columns: Rank, Team Name, Points. 1. 神戸親和女子大 (10), 2. 大阪国際大 (11), 3. 関西学院大 (12), 4. 聖泉大 (13), 5. 武庫川女子大 (14), 6. 近畿大学 (15), 7. 追手門学院大 (16), 8. 姫路獨協大 (17), 9. 大体大 (18), 10. 大体大 (19), 11. 大体大 (20), 12. 大体大 (21), 13. 大体大 (22), 14. 大体大 (23), 15. 大体大 (24), 16. 大体大 (25), 17. 大体大 (26), 18. 大体大 (27), 19. 大体大 (28), 20. 大体大 (29).

硬式野球

ルーキーたちが魅せた

2017年度阪神大学野球新人戦



決勝戦は6月18日、南港中央野球場で行われ、大体大は関国大と対戦した。初回に先制した大体大は、五回にも追加し、関国大相手に3-0の完封勝利で優勝を果たした。全4試合のうち3試合を先発した投手の中川優(体育2年)が最優秀新人賞を受賞した。リーグ戦でベンチ外の選手が多く、みんな久しぶりの試合を楽しんでいたことが優勝の要因と中川が述べたように、全選手手練手造りとして見えた。大体大は中川が少い失点で試合を作り、試合の後半で得点を重ねる展開で決勝まで勝ち上がった。(2-1)

軟式野球

全員野球で掴んだ優勝

平成29年度近畿学生軟式野球春季リーグ



優勝の裏には部の方針転換があった。深瀬は「僕が入部した時はサークル的な部活だった。でも、今年から学生だけで日本をまわりたい。まずは、部員間の連携を強化すること。部の方針が変わった今年度は、リーグ前の練習試合ですら、負けていない。深瀬は「勝つために部の方針を変えた結果、思い通りになっている。今は勝ち続けることができないという気持ちで芽生えてきている。みんな長いフラインドを持っている。チームの状態は満足している。現在は、より人間性を磨くために地域社会の貢献活動として、小学生の野球教室などを率先して行っている。学生自身の目標を達成するには、自分の周りの方や社会に認められる選手、チームにならなければならぬ。そんな選手、チームになることが軟式野球部の目的です」と学生日本一の目標に相応しい選手となる決意を語った。



関西地区大学女子軟式野球春季リーグ戦 5月14日~6月11日/大阪芸大グラウンド 5季連続のV逸すも、インカレ視界良好

全国大会で雪辱誓う

5季連続優勝ならず。優勝をかけた最終節は6月11日に行われ、4戦全勝の大体大は関国大に0-1、武庫川女子大に2-3で敗れ、5季連続11回目の優勝はならなかった。最終節は教育長自ら先発し、34年生で出場したのはエース前直子(健福4年)と林山真子(体育3年)だけ。対関国大戦は前夜、一回から三回まで毎回走者を背負いながらも、遊撃の奥田希真(体育2年)、捕手の多々良(同)、ルーキー、三好さくら(体育2年、辻本愛同)の2安打で、力投の前は四回1死3塁、三塁ゴロの間に生還を許し、決勝点となる1塁を失った。続く武庫川女子大戦に勝てば一敗回士を並び、得失点差で上回りの優勝の可能性を秘めていた。選手たちは気迫に満ちてスクラウンドに敵った。先発は進撃勢の本格右腕、中村沙恵(教育2年)、三回に先制点を書いたが、四回に奥田の四球を足場に、佐藤、中村、多久が快打するなどしてすくすく逆転、流れは大体大に傾いた。だが、この一戦に雪辱を期した武庫川女子大は五回、失策で出した走者を機動力で進め、失策で同点。2死1塁から中前打されて3-4と勝ち越され、この1点に立っていた。2試合とも1点差の悔しい試合だったが、1、2年生主体のチームで、ここまで戦えたのは戦力のレベルアップを思わせる。采配をふるった仲尾明敏助監督(教務補佐長)は「一級生が抜けている中で、選手は長く戦った。走者を迎え入れられなかったのは僕の采配ミス。全国大会ではこの悔しさを晴らす」ときき「ぜひ、一味違う大体大は、今年(8月25日~30日、富山・魚津)でひと暴れしよう」。

硬式野球

全国準V



第3回 全国大学女子硬式野球選手権 高知大会 5月20日、21日/安芸市営球場



優勝した大体大の選手たち



最優秀賞を受賞した中川優

体大打線が中川を勢いづける展開をみせた。初回の先制点で気持ちに余裕がき、調子で上がった中川は、火がついたのは中川だけではない。新人戦に出場したメンバー全員が野球の楽しさを感じ出し、レギュラー争いに火がついた。新人戦出場メンバーの今後の活躍に期待したい。

女子バスケット村上新体制、初陣を飾る 4年ぶり15回目の優勝!

女子
バスケットボール

全関西女子学生バスケットボール選手権大会

4月15日~5月4日 東和薬品ラクトブーム他



最優秀選手賞で
主将の鐘ヶ江さゆり
(体育4年)



決勝の会場は陣時がほとんど埋まった状態で、大団の大応援団の音が響く中スタートした。第1Qは、両チーム激しいディフェンスでシュートを決められないまま、コートを決めきれないまま、3Pシュートを逆転した大団。負けじと大団も3Pシュートで再逆転、試合は1ゴール差を争うシーソーゲームとなった。試合を決めたのは第4Q、連続3Pシュートを決めた水上上聖(体育4年)の3Pシュートを決め、大団の追撃を許さず、大団は栄冠を勝ち取った。

かたずをのむスタンド

「大団にこそ数年勝てていない、去年は決勝も負けていないという状況の中で、勝ちました」と、鐘ヶ江主将は、今年のチームの武器は交代メンバーが多いことで、フレキシブルにプレーができることが強みになっていると、新戦力の加入による効果も話した。

決勝戦は5月4日、東和薬品ラクトブームで行われ、大団はここ数年間負けているライバル・大団と対戦、後半に勢いに乗り69-59で因縁の対決を制した。大団は4年ぶり15回目の優勝、鐘ヶ江さゆり主将(体育4年)が最優秀選手賞、上長美菜(同4年)が優秀選手賞、中村有希(同1年)が新人賞を受賞した。また、今大会から公式戦で初めて指揮を執ることになった、村上新監督が優秀監督賞に選ばれた。



試合を決めた水上上聖(体育4年)の3Pシュート



新人賞を受賞した中村有希(体育1年)

優秀選手賞受賞の上長美菜(体育4年)



第38回全関西女子学生バスケットボール選手権大会(4月15日~5月4日、東和薬品ラクトブーム他)

- ▽4回戦 大団 30 京大
- ▽準決勝 大団 38 京大
- ▽決勝 大団 58 武庫女大
- ▽最優秀選手賞 鐘ヶ江さゆり(体育4年)
- ▽優秀選手賞 上長美菜(体育4年)
- ▽新人賞 中村有希(体育1年)



公式戦初戦で優秀監督賞を受賞した村上新監督



左から新人賞の中村有希(体育1年)、最優秀選手賞の鐘ヶ江さゆり主将(同4年)、優秀選手賞の上長美菜(同4年)

男子
バスケットボール

第44回全関西男子学生バスケットボール選手権大会
4月15日~5月4日 大阪市立東淀川体育館他

創部初の準V

男子バスケットボールの決勝戦は5月5日、大阪市立東淀川体育館で、大団対大団のカードで行われた。大団男子バスケットボール部は、創部初の決勝進出で勢いが、厳しい戦いを強いられ、主将であり得点源である岸田篤生(体育4年)が、準決勝の近畿大学戦で負傷した状態が酷く、決勝戦へ出場できなかった。苦しい状況の中、昨冬まで特別指定選手としてプロバスケットボールリーグ(Bリーグ)の西宮ストークスに所属していたエース内藤健太(同4年)を中心に攻めるも、大団の個人技に阻まれ、惜しくも準優勝で幕を閉じた。

逆境をはねのけた チーム力



主将岸田に代わり奮闘した藤本巧太(体育1年)



大団大物大応援団とOB



比嘉監督が、3月と24日日本代表の合宿で同調して、いい感じの練習をしてきた。どのよう練習していたか、チームは監督の要にはチームを支えるス



得点王で敢闘賞受賞の内藤健太

今年こそはインカレへ

内藤は、目標はインカレに出場すること。リーグ戦では今大会までマークが厳しくなるので、自分自身の今後の課題としては、細かい個人技のスキルアップをしない

- ▽第44回全関西男子学生バスケットボール選手権大会(4月15日~5月4日、大阪市立東淀川体育館他)
- ▽4回戦 大団 100 21 京都大
- ▽準決勝 大団 70 58 京大
- ▽決勝 大団 74 73 近畿大
- ▽最優秀選手賞 内藤健太(体育4年)
- ▽敢闘賞 藤本巧太(体育1年)
- ▽優秀選手賞 岸田篤生(体育4年)
- ▽新人賞 山田友哉(体育2年)

男子関西王者に大金星! インカレ出場権獲得!

バレーボール

第43回西日本バレーボール大学男子
女子選手権大会
6月28日~7月2日
ベイコム総合体育館他

場権が獲得できるベスト8だったため、ベスト8には入らなかったと目標達成を素直に喜んだ。主将の広瀬優(同4年)も「教育実習の休みの時に試合を見に行ったが、西日本の出来は良かったと思う。1年生もポテンシャルが高いので、これから技術を上げて、これからの活躍を期待している」と、大会の出来に満足していた。

窓
紙面をがらりと刷新しました。ビジュアル化、文字のポイントの拡大、原稿出さずにはコンテントに「を」をコンテにしました。読まれた感想はいろいろですが、編集室で良かれと思って制作しても、必ず編集室があります。質はいいものですが、否ともです。編集室としては、大いに勉強になります。質があるというの、健全な批評です。SNSも大団に変わりました。専任助手に中村志君、体育部4年の坂下隆彦君、同3年の松本直也君、宮内淳希君、教育学部3年の松田涼輔君、藤田晴之と編集長の僕も入れ7人でこれまで最盛期になりました。マスコミに紙の時代は過ぎ去り、SNS、ソーシャルネットワークキング・サビの天下です。だから紙媒体が必要なんです。SNSは確かに便利ですが、悪者が主役で、感情の赴くままに回ります。これが怖いんです。質的にフェイクニュースを流すことも多々見られます。我がスタッフはそれには敢然と立ち向かいます。ご意見お待ちしています。
[相馬司]



男子
第43回西日本バレーボール大学男子選手権大会(6月28日~7月2日、ベイコム総合体育館他)

男子決勝トナメントと回戦は、6月30日、ベイコム総合体育館で行われ、大団は関西王者の王者の大団と対戦した。大団は関西春季リーグ8位格の大団と対戦し、大団は関西春季リーグ3位の格の大団と対戦し、インカレ出場権を手にした。女子は決勝トナメント1回戦で山田大学に3-0のストレート勝ちを収めた。2回戦で大団に0-3のストレート負けを喫し、インカレ出場権を獲得することができなかった。